

事業所特別安全祈念行事



FC課代表による安全宣言

8月11日、事業所特別安全祈念行事を行いました。

2008年8月9日と11月15日に発生した二度のホスゲン漏洩事故の反省と教訓が風化しないよう、8月9日を事業所特別安全祈念日と定め、毎年安全に関する様々な行事を行っています。

当日は事業所稲荷神社で安全祈願を行った後、事故の発災部署であったFC課職場代表者より安全宣言がありました。二度と漏洩事故を起こしてはならないという強い決意表明が場内放

送で読み上げられると、事故直後の現場の緊張感が全職場に伝わりました。

続いて、窪田事業所長から「ヒューマンファクター（人間の行動特性）と安全管理」というテーマで安全講話がありました。人間が持つ「不注意」「錯覚」「近道行動」「省略行動」の4大行動特性について図や映像を用いて具体的に説明した上で、ヒューマンエラーを防止するためには、その要因となるヒューマンファクターを理解して防止策を考える事が必要があり、また、ヒューマンエラーは当事者だけの問題ではなく、それを巻き取る環境やマネジメントも深く影響していると話しました。

その他にも、市橋次長からは「被液防止のための設備設計」について、安藤IC課長からは「ホスゲン漏洩事故で失ったもの」という内容で講話がありました。

ミスやエラーは誰でも起こす可能性があり、それだけに事故は他人事ではなく自分事です。事故・災害防止のためには日常の業務の中で一人一人が安全に対する意識や感度を上げていくことが大切であると改めて感じた一日となりました。



ソーシャルディスタンスをとって参列



安全講話の様子

アルミ缶リサイクル活動

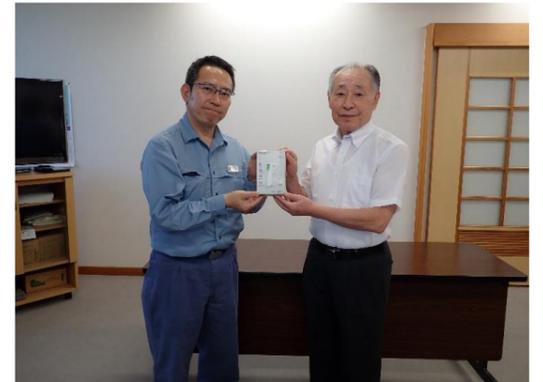
毎年、アルミ缶リサイクルのチャリティー収益金をもとにした物品寄贈を行っており、本年も2団体へ寄贈を行いました。8月27日、下郷作業所ホイップ様へは非接触体温計と掃除機2台を寄贈しました。ホイップ様では調理パンの製造と販売を行っていますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、職員の方々の健康管理やパン販売店舗の清掃にお使いいただけるとの事です。また、ホイップ様は昨年アルミ缶の持ち込み数が11万600個に及び、昭和電工グループアルミ缶リサイクル活動にて最優秀大賞を受賞されたため、表彰状の授与も合わせて行いました。

8月28日には会津若松市社会福祉協議会河東支所様へ、非接触式体温計4個を寄贈しました。これらも同所に併設の特別養護老人ホーム「桜河苑」にて、入所されている方々や職員の皆さんの健康管理にお使いいただけるとの事です。

物品の寄贈は今年で12回目となりました。今後もアルミ缶を1つでも多く回収できるような取り組みを展開し、地域の福祉に貢献していきます。



下郷作業所ホイップ様へ表彰状の授与



社会福祉協議会河東支所様にて受納式の様子

献血

8月5日、福島県赤十字血液センターからの協力依頼を受け、献血を実施しました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で3月から4月にかけて、各種イベントの中止や高校・大学・企業などからの献血バス派遣受け入れのキャンセルが相次ぎ献血への協力依頼について苦勞をされているとのことでした。今回、従業員が安心して献血ができるよう、受付時の検温実施はもちろんのこと、献血バス入室時の手の消毒実施や透明シートでの仕切り設置など、新型コロナウイルス感染症対策がなされており、スムーズに献血を行うことができました。

今回は協力企業を含む事業所内の従業員30名が献血をし、例年を上回る数の協力を得る事ができました。また、若い世代の献血離れがある中、初めて献血をしたという若手従業員もあり、その姿に頼もしさを感じました。

今後も東長原事業所では、社会貢献の一環として、献血に協力していきます。



受付時の検温の様子



入口にも消毒液が設置されています



バス内もシートで区別されています